2.3　委員会活動報告

2.3.1　理学部教務委員会・・・　58

2.3.2　理学部教務委員会 教育改善部会・・・　59

2.3.3　理学部教務委員会 教育実施部会・・・　61

2.3.4　理学部広報委員会 高大連携部会・・・　63

2.3.5　理学部広報委員会 情報・広報部会・・・　64

2.3.6　理学部入試委員会・・・　65

2.3.7　理学部就職指導委員会・・・　67

2.3.8　理学部学生生活委員会・・・　69

2.3.9　理学部国際交流委員会・・・　71

2.3.1　理学部教務委員会

教務委員会委員長　柘植　清志

１．委員会開催日時
令和７年４月 15 日

２．令和７年度に検討、実施した事項
（１）令和７年度教務関係全学委員会委員の選出
令和７年度教務関係全学委員会委員の選出を行った。
（２）令和７年度教務委員会活動計画の作成
教育改善部会、教育実施部会のそれぞれに関して令和７年度教務委員会活動計画を作成した。
（３）プログラム配属希望調査の実施方法の決定
昨年度に引き続き４回の希望調査を Forms で行うこととした。
（４）令和８年度教養教育ガイドへの卒業要件の提示
学務部からの要請に則り、教養教育ガイドへ卒業要件を提示することとした。
（５）学期を越える読替科目の成績の取り扱い方
改組によるクオーター制への移行に伴い２単位科目を１単位科目２つで読み替える際の取り扱いについて議論し、運用方法を定めた。

2.3.2　理学部教務委員会　教育改善部会

教育改善部会　柘植　清志

１．部会開催日
第 1 回：令和 7 年 5 月 28 日、第 2 回：令和 7 年 6 月 26 日、
第 3 回：令和 7 年 8 月 29 日、第 4 回：令和 7 年 11 月 17 日、
第 5 回：令和 8 年 1 月 6 日、第 6 回：令和 8 年 2 月 20 日、
以上、合計 6 回開催した。

２．令和 7 年度に検討、実施した項目
（1）教員職能開発活動（FD 研修会）の実施
ヘルンシステムにおけるキャリアカルテ（レーダーチャート）の活用に向け、その機能や活用方法等について、高橋学務課長に講演を依頼し、理学部・理工学研究科（理学系）合同 FD 研修会として 10 月 8 日に実施した。
（2）就職先に対するアンケートおよび卒業時アンケートの実施・分析・活用
昨年度に引き続き、就職先企業に対するアンケートおよび卒業時アンケートを実施することとした。就職先企業アンケートの結果のうち、学生への期待・卒業生評価については、就職指導委員会とも共有することとした。
（3）成績評価方法の改善策の検討
厳格な成績評価実施のため、成績評価分布について分析結果を成績評価分布の目標に照らし議論を行った。目標に向かって改善が進んでおり、引き続き構成員への周知を行い改善を続けることとした。
（4）シラバス入力徹底・改善の取り組み
昨年度に引き続き、シラバス入力についてチェックシートの作成等により、入力徹底・改善を図った。また、理学部入門 B のシラバスについては、プログラム間で大きな偏りが出ないようにすることとした。
（5）優秀学生表彰の実施
運営委員会と連携し、優秀学生表彰の実施を行った。
（6）授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケート結果について、部会で議論を行った。各プログラムで結果を共有し授業改善に活用することとした。一方で、Web 上での入力になってから回答率が低い事も指摘された。
（7）新教養教育科目「導入学修」について
上田理学部副学部長からの要請に基づき、導入学修 A, B について、成績評価方式、担当教員などについて議論を行った。

（８）編入学生に係る既修得単位取扱いの申合せについて

令和８年４月から改組後のプログラムへ編入学となることに伴い、改組後のカリキュラムに沿った内容へ申合せの改正を行い、教授会へ付議した。

（９）学外機関実施公開臨海実習の単位認定について

改組前に生物学科・自然環境科学科における運用として行っていた学外機関実施公開臨海実習の単位認定について、改組に伴い申合せを作成し、規則として整備を行った。

（10）他プログラム基盤科目の履修について

改組に伴い他プログラム基盤科目の履修が必須となったため、各プログラムの基盤科目の履修者数について検討を行った。２年次でほぼ要件を満たす程度の履修が行われていることを確認した。本年度に関しては、特定の科目への極端な履修生の集中はあまりみられなかったが、集中する場合には個別に対応していくなど、今後も検討を続けることとした。

（11）１年生のプログラム配属のアンケート調査

昨年度に引き続き、４回の配属プログラムの希望調査を行った。

（12)英語 e-learning の体系整備と実施

昨年度に引き続き、TOEIC 英語 E-ラーニング A, B として、英語 e-learning を実施し、定規基づき単位認定を行った。また、成績優秀者の表彰も行った。

（13）国際コース科目「海外研修」について

国際コース科目「海外研修」に関して、理学部主催の「海外研修」以外の留学による単位認定に関する申合せを策定し、教授会へ付議した。

（14）理学部履修のしおり 2026 について

理学部履修のしおりの記載内容について、修正・追記などのチェックを行うと同時に、各プログラムにおいても確認するよう依頼を行った。

（15）新２年生対象のオリエンテーションについて

昨年度に引き続き３月末に各プログラム配属された新２年生に対してオリエンテーションを行う事とした。オリエンテーション日時については早めにアナウンスすることとした。

2.3.3 理学部教務委員会 教育実施部会

教育実施部会部会長 田中 大祐

1. 部会開催日

4月15日（第1回），7 月28日（第2回），10月21日（第3回），10 月29～31日（第4回メール審議），1月27日（第5回），3月13～17日（第6回メール審議）

2. 令和７年度に審議・検討，実施した事項

（1） 授業時間割（案）の作成

令和７年度後学期授業時間割および令和８年度前学期・後学期授業時間割（案）について，各学科・プログラムで作成した時間割案をとりまとめて審議し，教授会に付議した.

（2） 既修得単位，大学以外の教育施設等における学修および他大学における単位認定

第 3 年次編入学生の既修得単位の認定，実用英語技能検定・TOEIC （IP含む） の成績等に基づく単位の認定，他学部主催海外研修参加における単位の認定，学外機関実施公開臨海実習の単位認定，放送大学との単位互換に関する単位認定，五大学理学部連携単位互換制度による単位認定，大学コンソーシアム富山単位互換科目の単位認定について審議し，教授会に付議した.

（3） 観察実験アシスタント業務における単位認定

観察実験アシスタント業務において，所定の時間以上の勤務実績がある学生10 名に対しての単位認定を審議し，教授会に付議することとした.

（4） サイエンスメディエーターの認定について

科学コミュニケーション単位修得者は３名おり，申請を呼びかけたが，本年度は応募がなかった.

（5） 令和７年度教育実習事前・事後指導について

令和７年度教育実習に係り，事前指導および事後指導について，輪番により本年度は都市デザイン学部地球システム科学科の教務委員が担当し，4月23日，4月24日，12月17日に実施した.

（6） 五大学理学部連携単位互換制度を利用した学生派遣について

五大学理学部連携単位について，信州大学からの提供があった科目に１名が申請し派遣を認めた.

（7） 令和８年度授業日程（案）の審議

令和８年度授業日程のうち理学部補講日について審議し，教授会に付議した.

（8） 令和８年度以降開講科目の読み替えについて

令和８年度以降開講科目の読み替え表を作成した.

（9） 令和７年度教職課程の自己点検・評価の実施について

令和７年度教職課程の自己点検・評価の実施について審議した.

（１０）理学部履修のしおりについて

理学部課程表（横断科目）について，学部間共同開講科目である「全学横断PBL」が令和８年度の教養教育改革により教養教育科目として開講されることに伴う取扱いを企画評価課に確認し，当該科目は横断科目から削除することとした.

（１１）「地方創生環境学A」及び「地方創生環境学B」の成績評価について

学部間共同開講科目である「地方創生環境学A」及び「地方創生環境学B」について，来年度より成績評価を合格・不合格の評語に変更することとした.

（１２）基礎実験の開講時期について

新カリキュラムへの移行により，各プログラムの基礎実験の開講時期が変更となったことについて意見交換を行った.

（資料）教育実習校訪問一覧　（理学系教員）

No.	教育実習校	訪問教員	実習教科名
1	富山市立速星中学校	幸山 直人	数学
2	富山市立呉羽中学校	張 勁	数学
3	県立富山中部高等学校	川部 達哉	数学
4	富山市立山室中学校	幸山 直人	数学
5	県立雄山高等学校	木下 豪太	数学
6	県立富山工業高等学校	古田 高士	数学
7	県立大門高等学校	上田 肇一	数学
8	県立いずみ高等学校	永井 節夫	数学
9	県立富山東高等学校	土田 努	数学
10	富山市立南部中学校	佐藤 勝彦	数学
11	県立呉羽高等学校	榎本 勝成	数学
12	県立小杉高等学校	蒲池 浩之	数学
13	県立富山西高等学校	秋山 正和	数学
14	県立富山北部高等学校	宮澤 眞宏	数学
15	県立富山高等学校	幸山 直人	数学
16	富山市立新庄中学校	赤丸 悟志	数学
17	県立富山西高等学校	秋山 正和	物理
18	県立呉羽高等学校	榎本 勝成	物理
19	県立高岡高等学校	松本 裕司	理科(物理)
20	県立富山北部高等学校	宮澤 眞宏	化学
21	富山市立奥田中学校	鈴木 炎	理科
22	富山市立西部中学校	野﨑 浩一	理科
23	滑川市立早月中学校	鈴木 炎	理科
24	県立福岡高等学校	原 正憲	理科(化学)
25	富山市立城山中学校	萩原 英久	理科
26	富山市立興南中学校	岡本 一央	理科
27	富山市立新庄中学校	赤丸 悟志	理科
28	県立富山東高等学校	土田 努	理科(生物)
29	県立雄山高等学校	木下 豪太	理科(生物)
30	県立滑川高等学校	玉置 大介	理科(生物)
31	高岡市立芳野中学校	佐澤 和人	理科
32	富山市立呉羽中学校	張 勁	理科
33	県立伏木高等学校	田中 大祐	理科(生物)
34	県立小杉高等学校	蒲池 浩之	生物
35	県立上市高等学校	古田 高士	数学

2.3.4　理学部広報委員会 高大連携部会

広報委員会委員長　高大連携部会長　青木 一真

1. **理学部広報委員会　高大連携部会**
   第１回：令和７年４月７日（月）

2. **2025 年度の全般の広報活動について**
   2025 年度の全般の活動は，高大連携事業（大学見学・理学部訪問、高等学校訪問、探求活動など）を行った．アドミッションセンターと連携を取りながら，高大連携活動を行った．

3. **高等学校生徒・保護者の理学部訪問**
   高等学校生徒からの理学部訪問数は３校（県内３校，県外０校）であり，いずれも理学部校舎で行った．保護者の訪問はゼロであった．高校生の訪問の場合には事前に模擬授業，施設見学，もしくは双方の希望の連絡があるため，それぞれの希望に合わせて実施した．高校からの理学部訪問は７月から８月までの間に行われた．

4. **高等学校訪問**
   高等学校の訪問は 11 校（県内７校，県外４校）であり，理学部の紹介または模擬授業を兼ねた理学部紹介を行った．高等学校での希望が模擬授業であっても，模擬授業と理学部紹介の双方を希望している場合が多いため，模擬授業の依頼であっても理学部紹介も行うようにした．対象学年は主に 1-3 年であり，複数学年が混在していた．また，高校訪問の依頼は６月から１月までの間に行われた．

5. **探究科学科等の課題研究への協力**
   富山県内の探究科学科設置校である富山中部，富山，高岡の３高等学校，県内の高岡南高校，富山東高等学校，砺波高等学校，北信越地区高等学校自然科学部の課題研究に協力した．　また，2022 年度より富山県高等学校自然科学部向けに、課題研究にむけてた講習会を今年度も行った。

   課題研究指導
   富山中部高等学校に教員４名，富山高等学校に４名，高岡高等学校に教員３名，富山東高等学校に教員５名，高岡南高等学校に教員２名，砺波高等学校に教員１名，北信越地区高等学校自然科学部に教員１名が課題研究の指導または発表会の講評に協力した．富山中部高等学校，富山高等学校，それに高岡高等学校とは派遣教員希望数および課題研究の内容の提示があったため，学部内で課題研究テーマに専門の近い教員へ依頼した．

6. **オープンキャンパス**
   オープンキャンパスは，2025 年８月２日に理学部校舎で対面開催となった．高校生にわかりやすい学部・学科説明を行うために，ウェブにより動画も公開した．

7. **次年度の探究科学科との連携**
   探究科学科設置３高等学校との間で次年度の高大連携について意見交換を行い，高等学校から提出された計画書に基づいて，派遣要請教員の分担を理学部，工学部，都市デザイン学部との間で協議を行う予定である．

8. **「りっか」の発行**
   理学部後援会会報「りっか」第 21 号の編集を，広報委員長，理工系総務課，「科学コミュニケーション」担当の川部達哉准教授，島田亙准教授，インタビュアー等の連携で行った．

9. **その他**
   ・特になし

2.3.5　理学部広報委員会 情報・広報部会

広報委員会 情報・広報部会長　秋山正和

1.　理学部広報委員会　情報・広報部会開催日

第１回：令和７年４月７日（月）
第２回：令和７年５月２８日（水）
第３回：令和７年１０月７日（火）
第４回：令和７年１２月２日（火）
第５回：令和８年３月１６日（月）

2.　理学部案内（スペクトラ）の作成（資料１参照）

令和７年度理学部案内（スペクトラ 2026）を作成した．当該年度は比較的小規模な変更を行った．発行部数については，例年約 1,000 部の残部が生じていること，将来的なペーパーレス化への移行を踏まえ，部数を縮小することとし，3,000 部から 2,500 部に減らして発注した．なお納品時期に関しては，全学の方針を踏まえて６月下旬となった．理学部案内は，高校訪問や出前講義などで配布するとともに，理学部のウェブページにて閲覧できるように，電子ブック版及び PDF 版を公開した．

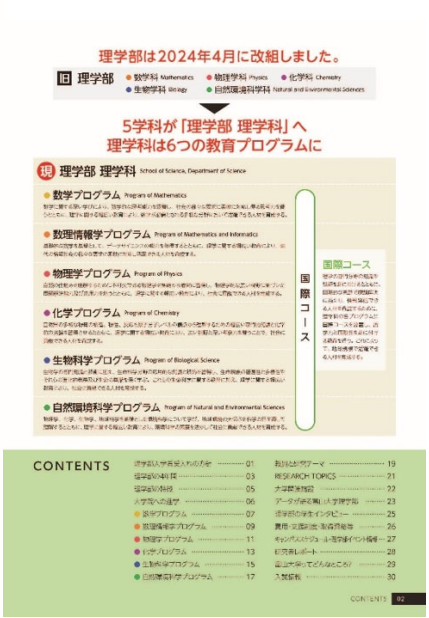
令和８年度理学部案内（スペクトラ 2027）に関しては，大幅な変更を行うこととなった．全学の要請を受けて，国際化強化のため国際コースのコンテンツを新規に４ページ追加した．さらに，全体の構成を見直すことでページ数を 32 ページから 28 ページへと削減した．また制作費の観点から検討を行った結果，制作会社を能登印刷株式会社から株式会社チューエツに変更した．予算発行部数と納品時期については，前回同様 2,500 部とし，６月中旬に納品を早めた．

3.　理学部ホームページの更新・改訂

- イベント，受賞，講演会などに関する情報を随時発信し，「トピックス」では理学部で行われている研究内容（6 件）を紹介した．
- 研究紹介動画（数学/数理情報Ｐ１本，物理Ｐ１本，化学Ｐ　１本，生物Ｐ１本，自然Ｐ１本）を作成した．特に，物理Ｐの動画は 8000 回を超える視聴回数を記録した．
- 理学部ホームページや富山大学理学部公式 YouTube で紹介した．
- 理学部ホームページの英語版を新しく作成した．

（資料 1）理学部案内（スペクトラ）　　理学部案内 2026 の表紙と目次





2.3.6　理学部入試委員会

入試委員会委員長　菊池 万里

１．委員会開催日時

第１回：令和７年　４月　１日（火）13：30～14：25
第２回：令和７年　４月 30 日（水）13：15～14：35
第３回：令和７年　６月　３日（火）11：00～11：50
第４回：令和７年　６月 27 日（金）14：57～15：42
第５回：令和７年　８月 27 日（水）13：16～13：48
第６回：令和７年　９月 25 日（木）～　９月 29 日（月）（メール審議）
第７回：令和７年 10 月 23 日（木）～10 月 28 日（火）（メール審議）
第８回：令和７年 11 月 13 日（木）～11 月 17 日（月）（メール審議）
第９回：令和８年　３月 10 日（火）10：59～11：24

２．副委員長及び全学委員等の選出結果

理学部入試委員会副委員長：石井委員
全学入学試験委員：菊池万里
全学入学試験委員会電算処理専門委員会委員：川部委員，林委員
教育・学生支援機構アドミッションセンター会議委員：田山委員

２．各委員会での審議を経て教授会に付議した案件

第１回 令和８年度入学者選抜要項（案）
第２回 令和８年度総合型選抜学生募集要項（案）
　　令和８年度第３年次編入学試験実施マニュル（案），
　　同試験要項（案）及び同実施要項（案）
第３回 令和８年度帰国生徒選抜学生募集要項（案）
　　令和８年度社会人選抜学生募集要項（案）
第４回 令和８年度一般選抜（前期日程・後期日程）学生募集要項（案）
　　令和８年度私費外国人留学生選抜学生募集要項（案）
第５回 令和８年度第３年次編入学試験日程（第２次）（案）
　　令和８年度第３年次編入学学生募集要項（第２次）（案）
第６回 令和８年度総合型選抜要項（案）及び実施要項（案）
第７回 令和８年度帰国生徒選抜及び社会人選抜要項（案）及び実施要項（案）
第８回 令和８年度第３年次編入学試験（第３次）学生募集要項（案）
　　令和８年度第３年次編入学試験（第３次）要項（案）及び実施要項（案）
第９回 令和９年度第３年次編入学日程及び学生募集要項（案）

3．「富山大学案内 2026」の作成

入試関係資料でもある「富山大学案内 2026」の記載内容について、2025 年度のものに基づいた原案の記述（学部の特色等）に不十分な点があったため、学部執行部に記載内容の修正を依頼した。また、各プログラムに記載内容の確認を依頼した。

4．令和 7 年度高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会への教員派遣

入試委員会副委員長の 石井 博 教授を派遣した。

（開催日：2025 年 7 月 22 日（火），理学部からの出席者： 石井 博，松田 恒平）

5．受験者数の確保と入学者の能力・学力向上に向けた取り組み

学部改組後，まだ完成年度を迎えていないため，現段階では現状を把握することを目的として，入学者の単位修得状況や GPA などのデータを収集することを確認した。また，関連する事案として，大学入学共通テストの段階評価「スタナイン」を用いた選抜方法の導入について，全学から学部の意見を求められた（教育研究評議会において「英語力向上に向けた入学者選抜方法の改善」の議題の下に議論された内容を受けての意見聴取)。本事案に対し，受験生確保の観点や受験生の入学後の学業成績などを考慮した上で，理学部としては選抜に「スタナイン」を用いることに反対の立場を表明することを委員会として確認した。(その後，全学として「スタナイン」を用いた選抜を導入することが教育研究評議会で決議された。)

2.3.7　理学部就職指導委員会

就職指導委員会委員長　堀川恵司

就職活動時期の早期化，求人状況の変化などに伴い，学生への就職支援をさらに充実させることが求められている。そのために就職指導委員会として以下の活動を行った。

1. 令和７年度理学部新入生保護者懇談会での就職支援についての説明
令和7年４月8日(火)
新入生保護者に対し，令和6年度卒業・修了生の就職状況と理学部の就職支援体制について説明を行った。（令和６年度委員長が説明）

2. ３年生および大学院１年生を対象にしたキャリア支援ガイダンスの開催
・「就活スタートアップ講座」3年生対象 ※就職・キャリア支援センター主催
令和７年4月23日（水）3限 13:00～14:30 会場：理学部多目的ホール
・石黒 綾佳 氏（株式会社リクルート）
就職活動スケジュール，インターンシップ，就活の心構えについて
・就職・キャリア支援センター職員
就職・キャリア支援センターについて

3. インターンシップ等への取り組み
インターンシップ等希望者に対してインターンシップ等事前説明会を開催した。
令和７年5月28日(水) 14：45～16：15 会場：理学部多目的ホール
・理学部教務担当　「単位認定に関する説明および連絡事項」
・石黒 綾佳 氏（株式会社リクルート）　「インターンシップ前のコミュニケーション&マナー講座」

4. 理学部就職説明会の開催（3年生・大学院1年生対象）
令和７年10月15日(水) 14：45～16：15　会場：理学部多目的ホール
・就職内定者による就職活動体験談発表
片原 里菜さん（理学部化学科）
桑原 想さん（理工学研究科（博士前期課程）・地球生命環境科学プログラム）
・佐藤 美紀 氏（株式会社リクルート)「これから役立つ！研究紹介＆質問力UP 講座」
・杏 海人 氏（株式会社マイナビ)「就職ガイダンス～本選考に向けたスケジュールと選考対策について」

5. 理学部FD研修会の開催

令和７年11月12日(水) 13：00～13：30　会場：理学部大会議室　参加者54名

・石黒 綾佳 氏（株式会社リクルート）

最新の就職環境

理系ならではの進路の考え方

ガイダンスの重要性

6. キャリア支援授業（理系キャリアデザイン，１単位・専門基礎科目）の開講

主に学部２年生を対象とした理系キャリアデザインを令和７年11月5日～令和８年1月28日の水曜3限に8回開講した。理学部同窓会や理学部各学科の協力により理学部OBなどの社会人講師を招いて，就職先を決定した動機，実際に働いてみたときの経験談など通して，理学の学士・修士・博士としての知識，技術，能力をどのように社会で役立てているかなどについて講義して頂いた。82名が受講した。

7. 理系の進路選択とキャリアプラン講座（2年生・大学院進学予定の4年生対象）

令和８年1月21日(水) 13：00～14：30　会場：理学部多目的ホール

・石黒 綾佳 氏（株式会社リクルート）

理系の進路のリアル，考え方を知ろう

生成AIを使ってキャリアプランを楽しく考えよう

8. その他

・就職指導委員会の開催 2回（4/22：火・9/9：火）など，これまで行われてきた委員会活動を継続して行った。

2.3.8　理学部学生生活委員会

学生生活委員会委員長　唐原一郎

はじめに

学生の学修と生活に対するサポート体制の充実と、定期面談等を介した学生の修学生活指導の確実な実施がひきつづき全学的にも求められている。本委員会は、本学理学部に在籍する学生が大学に入学してから社会に巣立つまで、心身共に健康な生活を送るため、就学および生活に関する支援を行う。この支援には、大学生活上のさまざまな問題や悩み、福利厚生に関する相談事なども含まれる。また学生が主体となって開催するサイエンスフェスティバルの支援、全学の学生支援センター会議と連携してクラブ活動の支援、奨学支援活動も行う。本年度の主な活動内容は以下のとおりである。

1. 委員会開催日

第１回　４月 22 日　　第２回　７月１日

第３回　２月 9-10 日（メール審議）

2. 学生生活に関する FD 研修会の実施

９月 10 日(水) 13：00～13：30 に、「障害学生の支援について」というテーマで、教職員を対象とした講演会を開催した。学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室・特命准教授・栗林睦美先生に依頼し、障害を有する学生の支援について、障害学生の支援における合理的配慮や学内連携の現状等についてご講演いただいた。 56 名が参加した。

3. 防犯に関する講習会

４月７日（月）に実施した学生生活に関する理学部オリエンテーションにおいて、１年生を対象に学生が窃盗・盗難・恐喝・ストーカー・痴漢・DV・違法薬物・交通違反等の加害者・被害者になることを未然に防ぐための啓発活動を実施するとともに、富山県西警察署作成の闇バイトに関する注意喚起を DVD の視聴により行った。

4. 消費生活知識に関する講習会

４月７日（月）に実施した学生生活に関する理学部オリエンテーションにおいて、富山県消費生活センターから講師を招き、１年生を対象に消費生活知識に関する講習会を行った。

5. サイエンスフェスティバル 2025 の支援

本年度のサイエンスフェスティバルは９月 20 日(土)、21 日(日)の２日間にわたり開催された。学生生活委員は、各学科の事故やトラブル発生時の対応支援のため、緊急時にブース代

表と連絡が取れるような体制をとり、登校し定期的な巡回と連絡待機を行なった。学生による実験展示（科学実験ブース）企画、サイエンスカフェ企画などが、学生を主体として企画運営された。2 日間とも事故の発生もなく、全企画行事を予定どおりこなして盛況の内に終了した。

6. その他

- 助言教員による年２回（T1 および T3）の定期面談の実施呼びかけ時の、面談資料のメーリングリストでの配信
- 「保護者宛成績送付文書」、「助言教員の学生指導・支援の際の留意事項」のアップデート
- 年度始めの学生生活オリエンテーション
- 入構許可証のチェック、全学の学生支援センター会議・理学部再編委員会への参加（委員長）

2.3.9　理学部国際交流委員会

国際交流委員会委員長 畑田 圭介

今年度で 2 年目の理学部一学科制の新体制において、理学部の国際コースが始動した。UTAR への派遣、また受け入れのサポートを行うために必要な方策を検討する。学長裁量経費により、UTAR への教員派遣ならびに教員と学生の受け入れを行った。国際コース対応 WG との連携をとりつつ理学部の国際化対応を行った。

現在国際コースの渡航先は UTAR がメインとなっているが、他の渡航先としてカメリーノ大学、西ボヘミア大学に対しても打診している。特に、UTAR には物理学科がないため、早急に他の渡航先を模索する必要がある。

1.委員会

第 1 回　　令和 7 年 4 月 11 日（金）
第 2 回　　令和 7 年 4 月 25 日（金）～5 月 2 日（金）（メール会議）
第 3 回　　令和 7 年 6 月 18 日（水）～23 日（月）（メール会議）
第 4 回　　令和 7 年 7 月 2 日（水）～7 日（月）（メール会議）
第 5 回　　令和 7 年 11 月 5 日（水）
第 6 回　　令和 7 年 12 月 4 日（木）～8 日（月）（メール会議）
第 7 回　　令和 8 年 2 月 10 日（火）

２．マレーシア（UTAR）における国際コース海外研修の開始

・改組後の 2024 年度入学生が 2025 年 4 月から 2 年次へ進級し希望者は国際コースへ所属となったことに伴い、国際コース海外研修が開始となった。

・2025 年度は 9 月 2 日～10 月 4 日にかけてトゥンク アブドゥル ラーマン大学（マレーシア）での受講・実習等受講を中心に海外研修を行い、国際コース学生 15 名が参加した。

・本海外研修中に引率教員がトゥンク アブドゥル ラーマン大学と協議を行った結果、国際コース学生からの希望に基づき、2026 年度以降の海外研修においては、英語にて受講する数学・物理学系の授業も実施することとなった。

３．学生の海外派遣、留学生の受入れ事業

・日本学生支援機構 2025 年度海外留学支援制度（タイプ B）にて、「未来の国際的研究者育成を目的とした研究型欧州派遣プログラム」が採択された。

・「未来の国際的研究者育成を目的とした研究型欧州派遣プログラム」にて、西ボヘミア大学へ学部生１名及び博士前期課程大学院生２名の計３名を、レンヌ第一大学へ博士後期課程大学院生１名を、カメリーノ大学へ博士前期課程大学院生１名及び博士後期課程大学院生１名の計２名の派遣を行った。カメリーノ大学はダブルディグリーでの博士課程の派遣であり、富山大学基金事業 海外ダブルディグリー・プログラム派遣支援を受けた。

・富山大学五福キャンパス国際交流事業基金「令和７年度〈前期〉〈後期〉学生海外渡航補助事業」に学部生名 12 名を推薦し、採択された。

・2025 年度全学的共通経費（外国人留学生経費）による外国人留学生支援事業に以下の企画を申請し、採択された.

外国人留学生の人的学修就職支援経費（申請額：150 千円・配分額：120 千円）

・グローバル化アクションプラン（国際化促進事業）に係る令和７年度学長裁量経費が次のとおり予算配分され、次の事業を行い、予算を執行した。

＜受入＞500 千円　2026 年 1 月 12 日～17 日にかけてトゥンク アブドゥル ラーマン大学から指導教員１名・留学生４名の受入れを行い、先方への旅費助成、職員会館宿泊料等として執行した。

＜派遣＞1,600 千円　国際コース海外研修における引率教員旅費、海外研修用物品・記録用ビデオカメラの購入等として執行した。

昨年に引き続き、受け入れ学生たちに対し、模擬実験等を行った。

4. 研究者の受入れ事業

令和５年に学長自ら大学間協定を締結したチェコの西ボヘミア大学からリエゾンプロフェッサーである Jan Minar 教授を昨年に続き数日間受け入れ、滞在中に学長訪問を行った。また、大学間協定のあるカメリーノ大学から Carlo Polidori 教授を受け入れた。 国際コースの受け入れ先としての可能性を加味し、英語による模擬講義を行ってもらった。